

アクモスグループの新鮮情報をお伝えするIRマガジン

ACMOS HIGHWAY

アクモス ハイウェイ

Top Message

確かな「成長」を目指して

中期経営計画を着実に進め、再生からの成長を目指す

特集

アクモス株式会社

ソリューション統括センター 首都圏戦略

事業紹介 クラウド構築サービス事業

アクモスジャンクション

「Location Business Japan 2014」レポート

人を育てる「懇話会・未来塾」

アクモス 株式会社

証券コード：6888

2014
Vol. 11

確かな「成長」を目指して

中期経営計画を着実に進め、 再生からの成長を目指す

第23期を振り返って

■ 前期取得の子会社事業が業績に貢献

第23期の業績は、第22期に取得した地図情報提供サービスのASロカス株式会社（以下、「ASロカス」という。）の事業が順調に立ち上がったこともあり、売上高は3,578百万円（前期比34.7%増）と年初の業績予想を超えることができました。

しかしながら、当社とASロカスが共同で行ったプロジェクトにおいて、第23期末で受注損失引当金34百万円を計上することになる等、消防通信指令システム開発関連の赤字が計画を上回りました。

この結果、営業利益は20百万円（前期は営業損失18百万円）、経常利益は23百万円（前期は経常損失24百万円）となりましたが、特別損失として固定資産除却損13百万円等を計上したことにより、当期純損失は9百万円（前期は当期純損失12百万円）となりました。第23期は、第22期に比べると収益性は改善



代表取締役社長
飯島 秀幸

いたしましたが、当期純利益の黒字化には至りませんでした。

■ 「再生」を年度テーマに取り組む

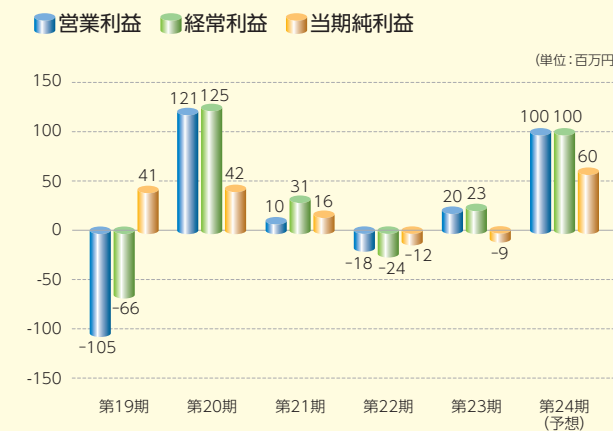
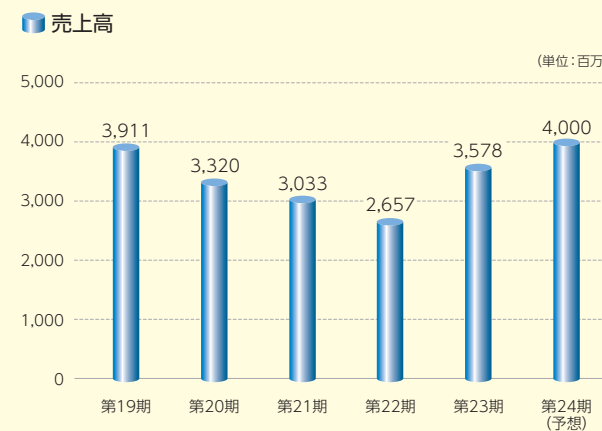
第23期は、中期経営計画初年度として「再生」をテーマに活動してまいりました。グループ事業の再生のためには、当社単体の再生への取り組みを加速させる必要があるため、「既存事業の収益力強化」と「成長分野の取り込み」を基本方針に掲げ、社員活性化・人事制度刷新・競争力強化の3つの委員会からなる再生プロジェクトを実施しました。

社員活性化に関しては、当社は技術者がお客様先へ常駐しているケースが多く、事業拠点も複数あることから、コミュニケーション不足が第一の課題でありました。どんなに良い計画を作っても、社員の理解がな

ければ始まりません。そこで、中堅から管理職までの約100名の社員を対象に社長懇話会を実施し、会社の施策を伝えるだけでなく、社員からの要望事項や意見を直接聞く機会を設けました。

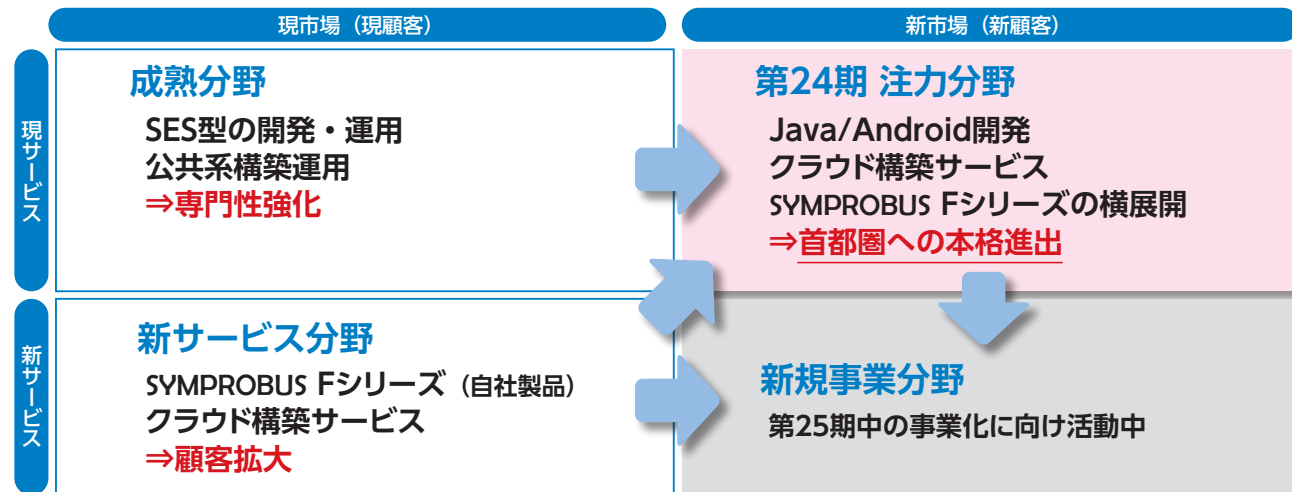
人事制度に関しては、運用開始は来期からとなりましたが、委員会からの提言をもとに、社員のモチベーション向上を目指して新制度を作成いたしました。

競争力強化に関しても、委員会からの提言をもとに「再生」のための施策を実行に移してまいりました。既存事業においては、収益力を上げることができたものの、新たなお客様開拓までには至りませんでした。成長分野においては、先述のとおり、期待して取り組んだ新規事業のうち「スマートデバイスを活用した消防向けシステム開発」がプロジェクト管理体制の不備



により開発が遅れ、赤字となりました。ここで得た教訓は次に生かしたいと思っています。もう一つの成長分野であるクラウド関連では、お客様のシステム環境のクラウド移行を支援する「クラウド構築サービス」を開始し、茨城県下の自治体様のクラウド環境におけるグループウェア共同化事業にiDC運営事業者様と連携して参画いたしました。また、2014年4月には、開発系の2事業部を統合するとともに、成長分野の種の発掘を目的に新規事業推進室を設置し、再生への取り組みと同時に第24期への布石を打つことはできたと思います。

■第24期の戦略イメージ



第24期は「成長」をテーマに、主として首都圏市場で成長を目指す

従来、首都圏ではSES型の運用を中心に事業を行ってきましたが、既存顧客が多く所在する茨城地区で実績を積んできた成長分野の事業を、新市場（新顧客）で展開するべく、第24期は首都圏市場への本格進出に注力いたします。また、第25期へ向けて、新規事業推進室で新事業の種を発見・育成してまいります。

第24期は確実な「成長」を目指す

第24期は、中期経営計画にある通り「成長」をテーマにまいります。

ITソリューション事業では、第23期のテーマ「再生」を踏まえつつ、戦略重視型の人材育成により、会社の成長のカギとなる社員の成長を図ってまいります。また、組織体制を見直し、時流や環境変化に適応した組織管理の強化を進めてまいります。

ITサービス事業は、情報処理・BPOサービスとIT製品のテスト分野において、規模は小さいなが

らも特色あるサービスを展開しております。今後もお客様の課題を解決するサービスの拡充を図り、営業活動に注力して事業の伸長を目指してまいります。

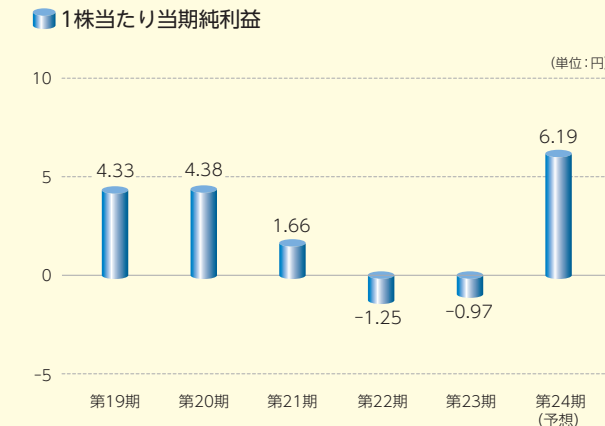
当社単体につきましては、第24期の戦略イメージ図に示す通り、新市場（首都圏）新顧客に向けて、クラウド構築サービスとSYMPROBUS Fシリーズの横展開を図ります。

株主のみなさまへ

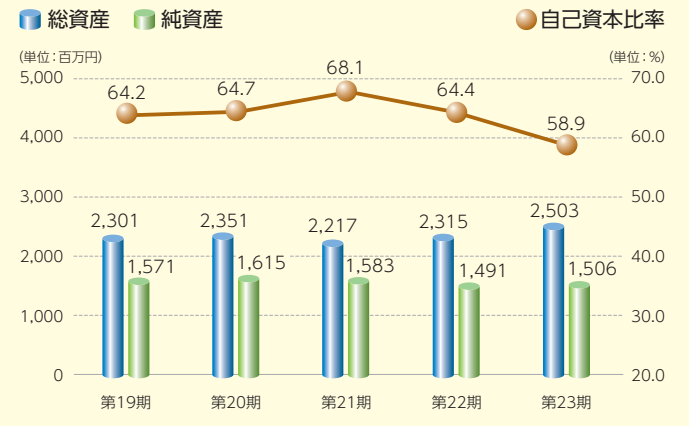
平素より株主のみなさまには、格別のご高配を賜りありがとうございます。当社は「株主さまへの持続的な利益還元」を基本方針の一つとして取り組んでまい

りました。第23期は、連結当期純利益はマイナスでしたが、当社単体では21百万円の黒字となりました。その結果、当初の予定どおり1株当たり1円を配当いたします。

第24期は「成長」を実現し、未来につながるサービスを首都圏で展開できるよう、社員一同、鋭意努力してまいります。株主のみなさまには、引き続き変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。



※当社は、2013年7月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。比較のため、1株当たり当期純利益の金額は、第19期期首に当該分割が行われたと仮定して算定いたします。

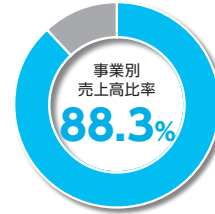


※自己資本比率=自己資本(純資産-新株予約権-少数株主持分)/総資産

アクモスグループは、お客様に感動していただけるプロフェッショナルなサービスを提供いたします。

ITソリューション事業

事業別売上高 **32億43百万円**



第23期の状況

SI・システム開発(アクモス・ACMOSソーシングサービス)では、受注がおおむね順調に推移。アクモスでは、iDC運営事業者様との協業により、クラウド基盤でのシステム構築案件を初めて手がけました。

地図情報提供サービス(ASロカス)では、官公庁案件を中心に受注が堅調に推移。リスクを避けた案件受注により利益率が改善し、営業利益を確保しました。

アクモスとASロカスの共同で行った消防通信指令システムプロジェクトの一部で不採算案件が発生し、受注損失引当金を34百万円計上しています。

なお、ASロカスが2013年6月に吸収分割により取得した事業の業績が寄与していません。(前期は1か月分のみ含む)

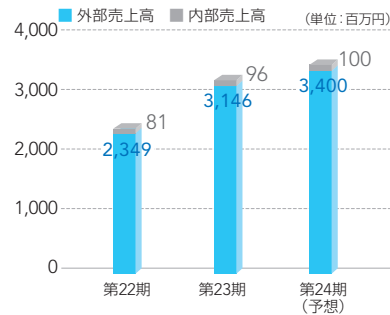
以上の結果、売上高は3,243百万円、営業利益32百万円となりました。

今後の方針

アクモスは、成長分野であるクラウド構築案件とJava/Android開発の首都圏への本格進出を図りながら、既存分野の専門性強化と収益力維持を進めるとともに、人事教育戦略を進めてまいります。

ACMOSソーシングサービスは技術者育成と営業強化により、ASロカスは新規サービスの提供により、ともに新規顧客獲得を目指してまいります。

売上推移



アクモス株式会社

- 消防通信指令システム
- CTI
- GIS
- スマートデバイス

- IT基盤設計・構築
- SI・ソフトウェア開発
- システム運用・保守
公共
産業・製造系 企業
医療機関など

ASロカス株式会社

- 業務系アプリケーション開発
- 地図情報提供サービス

ACMOSソーシングサービス株式会社

- 病院システム運用開発
- 業務系、基幹系システム開発
- ヘルプデスク

株式会社ジイズスタッフ

- 情報処理サービス
- BPOサービス

株式会社エクスカル

- 規格認証サービス
- 第三者検証サービス
- ユーザビリティ

- ◆ 単体ITソリューション群
- ITソリューショングループ企業
- ITサービスグループ企業



ITサービス事業

事業別売上高 **4億31百万円**

第23期の状況

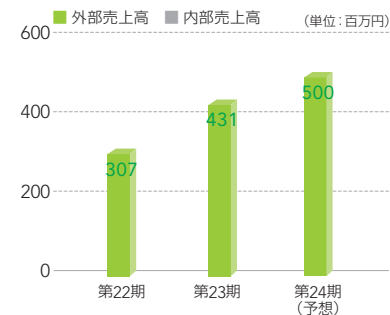
情報処理・BPOサービス(ジイズスタッフ)は、新規案件の受注が順調に推移。既存顧客案件も深堀営業により前期より拡大しました。

IT製品のテスト(エクスカル)は、既存分野においては厳しい事業環境が続いたものの、新しい規格ECHONET Liteにおいて認証テストとテストツール販売を中心としたサービス展開での顧客開拓が進みました。

なお、前期第2四半期より連結除外し持ち株会社となっていたエクスカルが、2013年6月に100%子会社となったことにより、売上高が増加しています。(前期は3か月分のみ含む) 以上の結果、売上高は431百万円、営業利益28百万円となっております。

今後の方針

売上推移



エクスカルは、成長分野の新規顧客開拓を図るとともに、既存顧客に対してはサービスメニュー強化と他企業とのアライアンスを進めてまいります。

ジイズスタッフは、人材育成とともに業務ノウハウの共有を進め、戦略的営業により新規顧客開拓を推進いたします。

アクモス株式会社 ソリューション統括センター 首都圏戦略

ソリューション統括センター 深作常務執行役員 インタビュー



ソリューション統括センター 首都圏センターのメンバー
(一番左が深作常務執行役員)

■ソリューション統括センターとはどのような組織ですか？

深作：顧客拡大にむけ、先端技術を追求しながら提案型営業を行う組織です。中期経営計画の基本方針の一つ「成長分野の取り込み」に基づいて第23期に新設され、主に茨城地区を中心に活動してきました。

■これまでの取り組みを教えてください。

深作：第23期においては、お客様のシステム環境のクラウドへの移行を支援するクラウド構築サービスを開始し、茨城県下の自治体様のグループウェア共同化事業にiDC運営事業者様との協業により参画しました。

■今後はどのような取り組みをしていく方針ですか？

深作：第24期からは東京にも活動拠点「首都圏センター」を置き、主に茨城地区で実績を積んできた成長分野の事業を、首都圏で本格的

に展開していきます。首都圏における戦略としては、「クラウド構築サービスの強化」「開発技術の横展開」の2つを考えています。

まず「クラウド構築サービスの強化」では、先ほどの話にも出た、iDC運営事業者様との協業によるクラウド構築サービスをはじめ、新技術であるクラウド基盤構築やサーバ/ネットワーク仮想化、プライベートクラウド・パブリッククラウドなど各種クラウドの活用実績をもとにした提案活動を推進していきます。

次に「開発技術の横展開」では、これまで茨城地区を中心に取り組んできたJava/Android開発事業について、首都圏市場へむけて本格的に展開していきます。また、公共分野で展開してきたSYMPROBUS事業の基礎技術であるCTIやGISについて、タブレットソリューション開発実績の活用や、ASロカスなどのグループ会社との連携も深めながら、新市場・新業種への横展開を図っていきます。

■最後に一言お願いします。

深作：第23期に茨城において5名で始まったソリューション統括センターも、第24期より茨城と東京合わせて10名の組織となりました。今後も、プロフェッショナル・サービス・プロバイダーとして、フットワーク良く柔軟な発想をもって、お客様の期待値を超えるサービスを提供してまいります。

iDC (Internet Data Center) …インターネット接続に特化したデータセンター

CTI (Computer Telephony System) …電話とコンピュータの統合システム

GIS (Geographic Information System) …地理情報システム

プライベートクラウド…企業などが自社内で利用するために構築したクラウド環境。

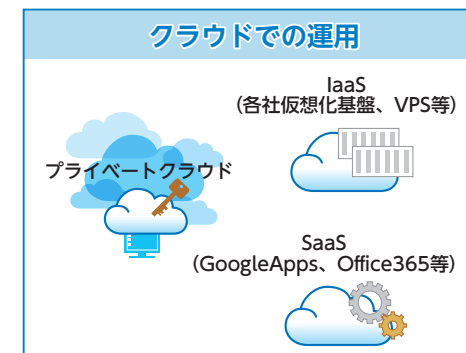
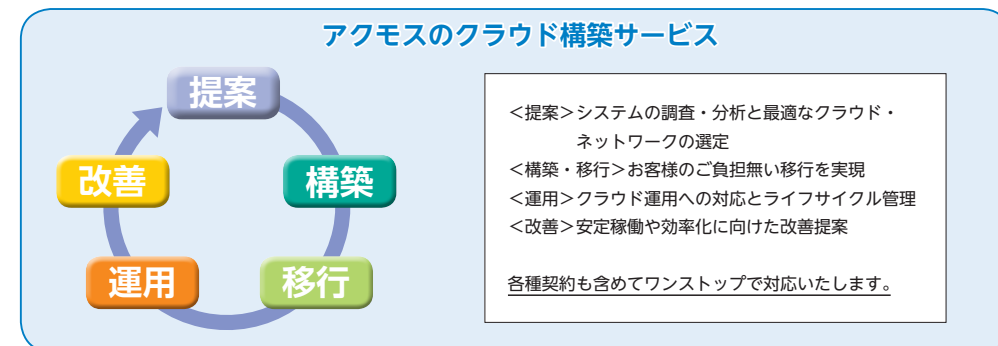
パブリッククラウド…一般利用者を対象に提供されるクラウドサービス。代表的なものに「Windows Azure」、「Force.com」などがある。

※記載されている会社名・システム名・製品名は、一般に各社の登録商標または商標です。

■事業紹介

クラウド構築サービス事業

これまでのネットワーク構築事業で複数ベンダーのサービスを活用してきた経験をもとに、お客様のニーズに応じた最適なクラウドを選定し、クラウド構築に関わるワンストップサービスを提供いたします。



導入事例 - グループウェア共同化事業

茨城県下の自治体様が共同して、グループウェアをクラウド環境で使用する「グループウェア共同化事業」に、iDC運営事業者様と協業して参画いたしました。

IaaS (Infrastructure as a Service) …情報システムの稼働に必要な機材や回線などのインフラをインターネット上で遠隔利用できるようにしたサービス

SaaS (Software as a Service) …必要な機能を必要な分だけサービスとして利用できるようにしたもの

※記載されている会社名・システム名・製品名は、一般に各社の登録商標または商標です。

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	第22期 2013年6月30日現在	第23期 2014年6月30日現在
資産の部		
流動資産	1,713,021	1,917,942
固定資産	602,840	585,321
有形固定資産	249,966	245,525
無形固定資産	278,668	246,791
投資その他の資産	74,204	93,004
資産合計	2,315,861	2,503,264
負債の部		
流動負債	619,920	759,237
固定負債	203,964	237,232
負債合計	823,885	996,470
純資産の部		
株主資本	1,485,318	1,466,175
資本金	693,250	693,250
資本剰余金	1,176,282	1,176,282
利益剰余金	△ 330,302	△ 349,445
自己株式	△ 53,911	△ 53,911
その他の包括利益累計額	6,657	8,963
少数株主持分	—	31,655
純資産合計	1,491,976	1,506,794
負債純資産合計	2,315,861	2,503,264

Point 1 資産の部

資産は、前期末に比べ187百万円増加しています。

流動資産の増加の主な理由は、現金及び預金の増加80百万円、売掛金の増加72百万円、仕掛品の増加46百万円によるものです。

有形固定資産の減少の主な理由は、減価償却累計額△37百万円の増加によるものです。

無形固定資産の減少の主な理由は、のれん59百万円の減少によるものです。

投資その他の資産の増加の主な理由は、長期前払費用9百万円の増加によるものです。

Point 2 負債の部

負債は、前期末に比べ172百万円増加しています。

流動負債の増加の主な理由は、買掛金42百万円、受注損失引当金34百万円、未払費用35百万円、未払金34百万円の増加によるものです。

固定負債の増加の主な理由は、長期借入金37百万円の増加によるものです。

Point 3 純資産の部

純資産は、前期末に比べ14百万円増加しています。

主な理由は、当期純損失9百万円、配当金9百万円、ASロカス株式会社の株式一部売却による少数株主持分の増加31百万円があったことによるものです。

■ 連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	第22期 (自 2012年7月 1日 至 2013年6月30日)	第23期 (自 2013年7月 1日 至 2014年6月30日)
売上高	2,657,119	3,578,513
売上原価 ※	1,927,191	2,615,075
売上総利益 ※	729,928	963,438
販売費及び一般管理費 ※	747,931	942,944
営業利益 (△損失)	△ 18,003	20,493
営業外収益	16,463	8,392
営業外費用	22,688	5,599
経常利益 (△損失)	△ 24,228	23,286
特別利益	37,020	4,562
特別損失	559	19,097
税金等調整前当期純利益	12,233	8,751
少数株主損益調整前当期純損失	17,713	8,493
法人税等	29,946	17,245
少数株主利益 (△損失)	△ 5,548	949
当期純損失	12,164	9,443

※前期まで、部門の労務費のうち直接製造に携わらなかった部分の費用については販売費及び一般管理費として計上していましたが、当期より売上原価として計上しております。そのため、前期の数値について遡及修正を行っております。

Point 連結損益計算書

当期の期首より、ASロカス株式会社が前期の2013年6月1日に吸収分割により取得した事業の業績が含まれております。(前期は1か月分のみ)
ASロカス株式会社の事業が順調な立ち上がりをみせたこと、また、各社が前年を上回ったことから、売上高は3,578百万円と前期比で34.7%増加しております。そのため、ITソリューション事業において不採算案件が発生し受注損失引当金34百万円を計上したものの、営業利益は20百万円(前期の営業損失18百万円)と黒字に転換いたしました。
特別損失の主な内訳は、前述のITソリューション事業における不採算案件に伴い発生した固定資産除却損13百万円となっております。

■ 連結包括利益計算書

(単位：千円)

科 目	第22期 (自 2012年7月 1日 至 2013年6月30日)	第23期 (自 2013年7月 1日 至 2014年6月30日)
少数株主損益調整前当期純損失	17,713	8,493
その他の包括利益	3,593	2,305
包括利益	△ 14,119	△ 6,188
(内訳) 親会社株主に係る包括利益	△ 8,570	△ 7,138
少数株主に係る包括利益	△ 5,548	949

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	第22期 (自 2012年7月 1日 至 2013年6月30日)	第23期 (自 2013年7月 1日 至 2014年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	102,783	150,195
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 83,775	△ 63,657
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 56,044	△ 5,749
現金及び現金同等物の増減額 ※	△ 55,825	80,789
現金及び現金同等物の期首残高	1,052,216	996,390
現金及び現金同等物の期末残高	996,390	1,077,179

※株式会社エクスカルが、前期第2四半期期首において連結除外となったことによる減少額△57,061千円、同社が前期末に連結対象会社となったことに伴う増加額38,273千円を含んでおります。

Point 連結キャッシュ・フロー計算書

(営業活動によるキャッシュ・フロー)
売上債権の増加△53百万円、棚卸資産の増加△70百万円の方で、減価償却費69百万円、のれん償却費59百万円、仕入債務の増加42百万円、受注損失引当金の増加34百万円があったことによるものです。
(投資活動によるキャッシュ・フロー)
ASロカス株式会社の株式の一部売却したことによる子会社株式の売却による収入35百万円の方で、有形固定資産の取得による支出32百万円、無形固定資産の取得による支出71百万円によるものです。
(財務活動によるキャッシュ・フロー)
短期借入金の純減額45百万円、長期借入金の純増額57百万円、配当金の支払9百万円によるものです。

アクモス株式会社・ASロカス株式会社 『Location Business Japan 2014』に出展

2014年6月11日～13日までの3日間、幕張メッセで開催された『Location Business Japan 2014』に、当社と子会社のASロカス株式会社の合同で出展いたしました。

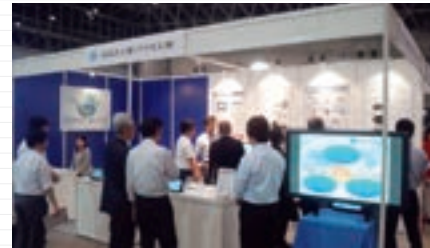
『Location Business Japan 2014』では“空間と情報の融合がもたらすインパクトを探る展示会”として、一般企業や研究機関から、最新の位置情報サービスや最先端の測位技術が展示されました。

当社とASロカス株式会社は、タブレット型や配信型の製品・ソリューションを展示し、3日間の期間中、多くの方にご来場いただきました。

■出展製品・ソリューション

可搬型AVMソリューション (SYMPROBUS Fシリーズ)

消防車両に搭載し、持ち運びが可能なタブレット型の車両運用管理ソリューションです。車両の位置や動態を送信する機能のほか、消防本部からの指令情報の表示や現地情報の送信などの機能を備えています。市販のタブレットを利用できるため、従来の専用端末に比べて利便性が高く、低価格での提供が可能です。



GEOSIS-OCX Ver8.0 (タブレット対応GIS開発エンジン)

地理情報システム(GIS)の開発エンジンです。システム構築において最も開発コストのかかる地図データ処理に関わる部分をまとめて提供しています。タブレットに対応しているため、開発コストを抑えかつ容易に現地調査端末用GISも構築できます。



GEOSIS Global Server (Web対応GISエンジン)

地図データを利用した配信サービスやシステムを構築することのできるWeb型のGISエンジンです。

GGS for スマートデバイス (汎用Web対応GIS)

タブレットやスマートフォン上で利用できるWeb対応GISです。屋外での現地調査業務(舗装状況、不動産や災害報告など)に威力を発揮し、様々な分野・業務への応用が可能となっています。操作性も高く、ワードやエクセル感覚で利用できる画期的なGIS製品です。

当社にとっては初めての展示会出展となりましたが、今後のマーケティングや営業活動に大いに役立てられる良い機会となりました。



アクモス株式会社 懇話会・未来塾



当期、アクモス株式会社では、社長と社員の積極的な対話を進めてきました。

「懇話会」は、社内でのコミュニケーション促進のために企画され、中堅から管理職までの全社員102名を対象に、社長との少人数制でのミーティング形式で行われました。

目的は3つ。

- ・社員との直接対話を通じ、経営方針やアクモスの将来像についての思いを伝える
- ・社員の声を直接聴くことにより風通しの良い企業風土を築く
- ・会社の成長につながる個人のレベルアップにむけた動機づけを図る

「懇話会」を通して、会社の方針への理解の浸透を図るとともに、社員からの要望や意見を真摯に受け止め、今後も、より一層のコミュニケーション強化を進めていきます。

「未来塾」は、明日のリーダーを育成するための学びの場として設けられ、中堅社員20名が、社長から3回にわたり講義を受けるという形で、2014年4月から始まりました。

テーマは3つ。

- ・生きること、働くこと、そしてビジョンについて
- ・経営戦略を考える
- ・リーダーになることについて

「未来塾」を通して、アクモスのビジョンを理解し、自ら率先して実践し、社員をリードしていく人材の育成に注力していきます。

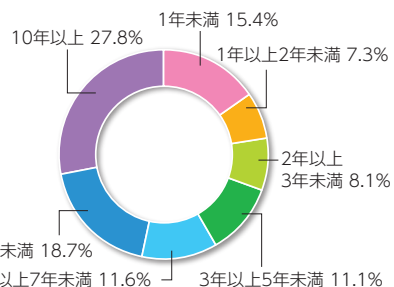
これらの取り組みは、アクモスグループの「成長」実現のため、第24期も引き続き実施していく方針です。

アンケート結果報告

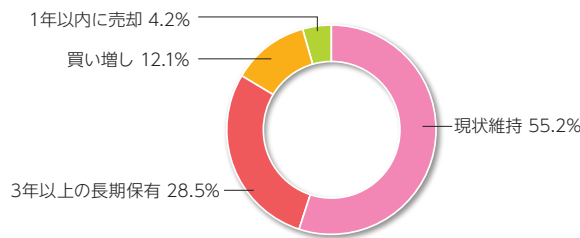
2013年秋発行のアクモスハイウェイに同封の「株主さまアンケート」につきまして、多くのみなさまから貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。

アンケート実施概要
 実施期間：2013年9月26日～2013年10月31日
 ご回答いただいた株主さま 522名 (全体の13.9%)

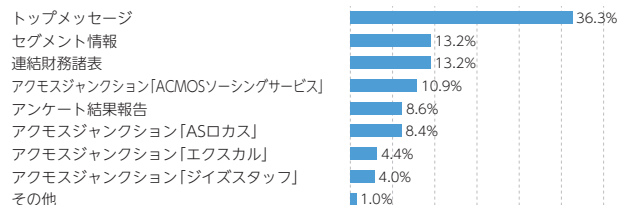
Q1 ▶▶▶ 当社の株式の保有期間



Q2 ▶▶▶ 今後の当社株式の保有についての方針をお聞かせください



Q3 ▶▶▶ 前回の「アクモスハイウェイ」で興味をもたれた記事をお選びください (複数回答可)



株主さまからのご意見

- ・もっともっと危機感を強く持って経営改善をしていてもらいたい。(30代男性)
- ・含み損はありますが、将来性を期待しています。今後少し、景気も良くなっていく様子、期待も大きいです。(60代女性)
- ・日本経済にとって今から大きなチャンスの時、市場分析、開拓等々をもっと大胆にスピードを持って全社一丸となり成果をあげてもらいたい。(60代男性)

アンケートへのご協力をお願いいたします

当社では、株主のみなさまとのコミュニケーション充実を図るため、毎年、株主さまアンケートを実施しています。いただいたご意見・ご要望は、経営やIR活動の参考とさせていただきますので、本年もご協力のほど、よろしくお願いいたします。

アンケート締切日：2014年10月31日 (消印有効)

なお、ご協力いただいた方の中から抽選で300名様に、謝礼品をお送りいたします。

社会貢献活動報告

当社が株主さまアンケートの謝礼品としてフェアトレード商品購入や、募金を通して南スーダンでの活動の支援を行っている特定非営利法人ピースウィンズ・ジャパンからコメントをいただきました。

ピースウィンズ・ジャパン 南スーダン支援報告

いつもご支援を賜り、誠にありがとうございます。南スーダンは、2011年の独立以降、新しい国づくりを進めてきましたが、2013年12月に内乱が起り、100万人以上の国内避難民が発生しました。ピースウィンズ・ジャパンでは現在、首都にできた国内避難民キャンプの衛生環境を改善するため、ごみ回収やトイレ・手洗い場の設置などの支援活動を行っています。



ごみ回収をする避難民女性



手洗い場で手を洗う子供たち

会社概要 / 株式の状況

■ 会社の概況 (2014年(平成26年)6月30日現在)

商号 アクモス株式会社
 設立 1991年8月23日
 資本金 6億9,325万円
 社員数 連結328名(単体218名)
 主な事業
 ・ITソリューション
 IT基盤設計・構築
 SI・ソフト開発
 システム運用・保守
 業務系アプリケーション開発
 地図情報提供サービス
 ・ITサービス
 情報処理
 検証・評価・認証

■ 役員及び執行役員の状況 (2014年(平成26年)9月25日現在)

代表取締役社長	飯島 秀幸	常務執行役員	深作 耕一
取締役 専務執行役員	石川 稔	執行役員	清川 明宏
取締役 常務執行役員	佐藤 修一	執行役員	中川 智章
取締役(社外)	柴田 洋一		
取締役(社外)	荻原 啓一		
監査役(常勤)	西山 達男		
監査役(非常勤)	星野 隆宏		
監査役(非常勤)	平野 喜久臣		
監査役(非常勤)	金子 登志雄		

※取締役及び監査役については、第23回定時株主総会終了後の状況を記載しております。

■ 主な事業所 (2014年(平成26年)6月30日現在)

本社 〒101-0052
 東京都千代田区神田小川町三丁目26番地8
 常和神田小川町ビル
 TEL：03-5217-3121

茨城本部 〒319-1112
 茨城県那珂郡東海村村松2713番地7
 TEL：029-270-5555

つくばオフィス 〒300-0847
 茨城県土浦市御町一丁目1番1号 関鉄つくばビル2F
 TEL：029-834-3391

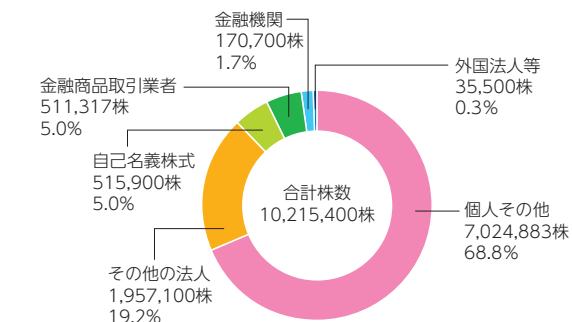
■ 株式の状況 (2014年(平成26年)6月30日現在)

発行可能株式総数 32,300,000 株
 発行済株式総数 10,215,400 株
 議決権を有する株主数 3,536 名
 上位10名の株主の状況

株主名	持株数(株)
コンセーユ・ティ・アイ株式会社	1,905,000
飯島秀幸	1,076,400
宮本治	371,500
アクモスグループ社員持株会	347,400
松井証券株式会社	194,400
星川輝	187,700
松田寛	170,000
日本証券金融株式会社	163,300
株式会社SBI証券	114,100
南悟	104,100

※自己株式を除く発行済株式総数の上位10名の株主を記載しております。

所有者別株式分布状況



■ 株主メモ

事業年度	7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月下旬
公告方法	電子公告 http://www.acmos.co.jp/ir/brief_note.html (電子公告により行なうことが事故その他やむをえない事情によりできない場合には、日本経済新聞に掲載して行ないます。)
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

■ 株式事務関係のお問い合わせ

お問い合わせ先・ 郵便物送付先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部テレフォンセンター 電話0120-232-711 (通話料無料) 受付時間 土日祝日を除く 9:00-17:00 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
--------------------	--

- 株券の電子化に伴い、株主様の住所変更、その他の各種手続きについては、原則として、証券取引口座を開設されている証券会社等で承ることになっております。
- 特別口座に記録された株式の各種手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部テレフォンセンターにお問い合わせください。



本社
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町三丁目26番地8
常和神田小川町ビル
TEL : 03-5217-3121
FAX : 03-5217-3122



JR東海駅より車で10分

茨城本部
〒319-1112
茨城県那珂郡東海村村松2713番地7
TEL : 029-270-5555
FAX : 029-270-5531

UD
FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



アクモス 株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町三丁目26番地8 常和神田小川町ビル
TEL : 03-5217-3121 FAX : 03-5217-3122 <http://www.acmos.co.jp/>

アクモスハイウェイは
環境に配慮して制作しています。



グリーン電力で印刷しています。

環境に配慮した用紙、インクを採用
しています。

JASDAQ 証券コード : 6888

編集・発行 アクモス株式会社 経営企画室
制作 宝印刷株式会社